

## IV 教育及び研究

### 1 学部・大学院の概要(3つの方針)

#### 【学部】

##### ○文化学部

###### ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

(汎用的・実践的技能)

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

###### カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

#### 1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、数理・データサイエンス・人工知能(AI)の基礎的な知識・技能(データサイエンス科目)、諸科学の基礎的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

- (3)可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

## 2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

### (カリキュラムの構造・教育内容)

- (1)学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。
- (2)人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系(英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域)、地域文化創造系(地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域)、文化総合系(言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ)の3つの系から成る学部専門科目を設置する。
- (3)専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。
- (4)この他、中学校・高等学校(国語、英語)の教職課程を設置する。

### (履修方法・順序)

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2~4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

### (教育方法)

- (1)『文化学部カリキュラム構成図』『文化学部カリキュラム・ツリー』『文化学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2)学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

### (評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

### アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

## 求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解力〕
2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

## 入学者選抜の基本方針

■文化学部〔言語文化系／地域文化創造系〕が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

### ・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

### ・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

### ・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

#### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

#### ・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部[文化総合系(夜間主コース)]が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

#### ・学校推薦型選抜(県内)

校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

#### ・社会人選抜(A日程・B日程)

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

#### ・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

## ○看護学部

### ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

- 専門的知識に基づいて、看護の対象を人間、健康・環境・生活の視点から包括的に理解することができる能力を有している。

(汎用的・実践的技能)

- 個人-家族-地域社会のダイナミズムのなかで、健康課題の解決に向けて看護を実践することができる能力を有している。
- 保健・医療・福祉などのあらゆる場で、リーダーシップを発揮して多職種と協働することができる基礎的能力を有している。

(態度・志向性)

- 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を擁護して看護の対象となる人々と関係性を築くことができる能力を有している。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 看護専門職者として生涯にわたって研究的視点をもって看護の本質を探究し、専門性を高めることができる基礎的能力を有している。
- 国際的・学際的見地に立って人々の健康と安全・安心な暮らしを支える看護を創造することができる基礎的能力を有している。

**カリキュラム・ポリシー**

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

**1. 共通教養教育科目**

- 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、数理・データサイエンス・人工知能(AI)の基礎的な知識・技能(データサイエンス科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
- 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

**2. 専門教育科目**

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。

- (2)看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え方、看護技術の修得を目指した科目を置く。
- (3)看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指した科目を置く。
- (4)総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探求していく基礎的能力を養うための科目を置く。

#### (履修方法・順序)

- (1)入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
- (2)看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
- (3)学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるよう、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
- (4)看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるよう、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるよう、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

#### (教育方法)

- (1)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるよう、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部カリキュラム・ツリー』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるよう、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

#### (評価)

各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

#### アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒュ

一マニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

### 入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

#### ・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査等(小論文、面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

#### ・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査等(面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

#### ・学校推薦型選抜(県内・全国)

校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

#### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

#### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

## ○社会福祉学部

### ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

### カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

#### 1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、数理・データサイエンス・人工知能(AI)の基礎的な知識・技能(データサイエンス科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

## 2. 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、ソーシャルワークを基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域におけるソーシャルワークに必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

(教育方法)

- (1)『社会福祉学部カリキュラム構成図』『社会福祉学部カリキュラム・ツリー』『社会福祉学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2)各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

### アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目的学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕

4. 地域や家族の福祉課題に关心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

## 入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

### ・一般選抜(前期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

### ・一般選抜(後期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己PR書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

### ・学校推薦型選抜(県内・全国)

校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

## ○健康栄養学部

### ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

#### (知識・理解)

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

#### (汎用的・実践的技能)

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身に持っている。

#### (態度・志向性)

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

#### (総合的な学習経験と創造的思考力)

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

### カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

#### 1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

#### 2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

#### (カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させる

ための補完科目として設置する。

- (2)専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。
- (3)専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (4)専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。
- (5)専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (6)専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
- (7)この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

#### (履修方法・順序)

- (1)基礎科目は、1年次に履修する。
- (2)専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
- (3)専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
- (4)専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
- (5)「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

#### (教育方法)

- (1)専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた『健康栄養学部カリキュラム構成図』『健康栄養学部カリキュラム・ツリー』『健康栄養学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2)「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

#### (評価)

各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

#### アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活でき

るよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。

したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

### 入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

#### ・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書も参考にして質問し、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

#### ・学校推薦型選抜(県内・全国)

校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

#### ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

#### ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

## 【大学院】

### ○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

#### ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人－家族－地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるよう、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を發揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

#### カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師(以下CNS)コース、研究コース及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

##### (構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目(大学院共通科目・専攻共通科目)」、「領域専門科目」及び「研究支援科目」の科目群をおく。
2. CNSコースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、災害・国際看護学、看護管理学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭(看護)専修免許に必要な科目をおく。

##### (順序性)

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するためにCNSコース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目を選択し、コースワークを踏まえて研究支援科目を履修できるように編成している。
7. 修士論文作成に向けて、2年次に研究計画書の提出、中間報告会の開催、修士論文を提出するように編成している。

## (教育方法)

8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNSコース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
9. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
10. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第14条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

## (評価方法)

11. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
12. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

## アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

## 求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探求する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

## 入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」及び「学内推薦」をおきます。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとします。

### ・一般(入試)

本区分では、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文: 看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

専門科目: 看護の専門的能力(専門的知識、実践能力)、論理的思考力及び社会や健康に関わる課題を分析する能力について評価します。

面接: 看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価しま

す。実践リーダーコースにおいては面接時に研究計画書を活用します。

#### ・学内推薦(入試)

本区分では、「小論文」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価します。

### ○看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

#### ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人々や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現やQOLの向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

#### カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

#### (構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、共創看護学、がん看護学、成人看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学、地域看護学、学校保健学、災害・国際看護学、看護病態生理学、看護経営管理学の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

#### (順序性)

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、3年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

#### (教育方法)

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論文作成指導にあたる。

#### (評価方法)

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等(最終試験)を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

#### アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。  
したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

#### 求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と創造力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

#### 入学者選抜の基本方針

博士後期課程における入学者選抜では、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解力、設問の内容を的確に把握し解答する能力を点数化して評価します。

小論文: 看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験: 看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書: 研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法の記述から研究遂行能力について評価します。

## ○看護学研究科 博士課程

### ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士(看護学)とし、(DNGL:Disaster Nursing Global Leader)を付記した、学位を授与します。

- 人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
- 災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。
- グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
- 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

### カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄付する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。

- カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「災害看護学の基盤を支える科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学の専門科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「インデペンデント学修科目群」及び「災害看護学研究支援科目群」の4つの科目群によって構成する。
- 学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるよう、「インデペンデント学修科目群」に「インデペンデントスタディ」を科目として置く。
- 構成大学院(「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」)は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
- 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualifying Examination を行う。
- 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

### アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

- 災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
- 災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていく人材。

※令和3(2021)年度から学生募集停止。

# ○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士前期課程

## ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

### 共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問(栄養・生活学、社会福祉学、文化学)を基盤に、専攻領域及び関連領域における学術的知識を身に付けている。
2. 設定した研究課題を学際的・科学的な視点で捉え、学問の体系化と発展に寄与する研究能力を身に付けている。

### 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

#### 栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

1. 栄養・生活に関する分野における専門的な知識と技術を身に付けている。(知識・理解)
2. 地域社会の特性を踏まえ、栄養・生活に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. グローバルな視野を持って、栄養・生活に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を世界に向けて発信できる力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

#### 社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

1. 社会福祉学の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。(知識・理解)
2. 地域社会の特性を踏まえ、社会福祉に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. グローバルな視野を持って、社会福祉学の新たな支援方法や資源の開発等に取り組み、創造的な実践を展開できる力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

#### 文化学領域 <修士(学術)>

1. 文化研究の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。(知識・理解)
2. 文化に関する地域の諸課題を人文科学的または社会科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 文化に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を地域に向けて発信できる力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

## カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

### 共通カリキュラム・ポリシー

#### (構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目(大学院共通科目、専攻共通科目)」「専門科目(栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目、文化学領域科目)」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。

2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎分野」「地域社会・多文化分野」「高齢分野」「障害分野」「児童・家庭分野」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。

(順序性)

5. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」(必修)と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(選択必修)を履修させる。

(教育方法)

6. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
7. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価方法)

8. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
9. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

領域別カリキュラム・ポリシー

**栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>**

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

- 1) 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
- 2) 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

- 3) 栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

**社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>**

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

#### (順序性)

- 1) 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
- 2) 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

#### (教育方法)

- 3) 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

### 文化学領域 <修士(学術)>

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

#### (順序性)

- 1) 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。
- 2) 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

#### (教育方法)

- 3) 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

### アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学者選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

### 求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

### 入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」「学内推薦」「社会人」及び「外国人留学生」をお

く。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとする。

#### ・一般(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。

小論文：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちのいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容(目的・方法・期待される結果)及び研究の特色(新規性・独創性)を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

#### ・学内推薦(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。

小論文：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちのいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容(目的・方法・期待される結果)及び研究の特色(新規性・独創性)を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

#### ・社会人(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

#### ・外国人留学生(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。必要に応じて、特技・資格・経験などについても問う。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

## ○人間生活学研究科 博士後期課程

### ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

#### 共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を自立して展開する能力を身に付けている。
2. 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、学際的な関連分野の知見をふまえて、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
3. 人間の生活に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて研究を実践する能力を身に付けています。

#### 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

##### 栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

1. 栄養・生活に関する分野における高度に専門的な知識を持ち、栄養・生活に関する分野を系統的・統合的に理解する能力を身に付けています。(知識・理解)
2. 栄養・生活に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けています。(研究遂行能力)
3. 栄養・生活に関する分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持った教授者として、栄養・生活に関する分野における専門職教育を担う能力を身に付けています。(総合的な学修経験と創造的思考力)

##### 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

1. 社会福祉分野における高度に専門的な知識を持ち、社会福祉学を系統的・統合的に理解する能力を身に付けています。(知識・理解)
2. 社会福祉学に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けています。(研究遂行能力)
3. 社会福祉学の分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持って、地域共生社会の実現に向けて指導的役割を担うことができる研究者および専門職業人としての能力を身に付けています。(総合的な学修経験と創造的思考力)

##### 文化学領域 <博士(学術)>

1. 文化研究の分野における高度に専門的な知識と系統的・統合的に理解する能力を身に付けています。(知識・理解)
2. 文化に関する事象や課題を人文科学的または社会科学的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けています。(研究遂行能力)
3. 文化に関する研究分野の発展に寄与する新たな知見を提供し、広く社会に発信することができる。(研究遂行能力)

4. グローバルな視野を持って、文化に関する研究能力を活かし、研究成果を公表することができる。(総合的な学修経験と創造的思考力)

### **カリキュラム・ポリシー**

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

#### 共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する主要科目群として、「専攻共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2. 専攻共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3. 専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4. 専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5. 研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

(評価方法)

6. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7. 博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8. 学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

#### 領域別カリキュラム・ポリシー

##### **栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>**

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるよう、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。

6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

### 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるよう、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

### 文化学領域 <博士(学術)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるよう、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

## アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的としています。したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

### 入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学者選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」を行い、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験:英文の読解力と設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

領域専門:社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、研究を進めるうえでの専門知識、プレゼンテーションに基づく論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、質問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

口述試験:研究計画についての発表と質疑応答を行い、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書:研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

## 2 受講者の状況

### 【学部】

#### (1) 共通教養教育科目

##### リテラシー科目

###### ○文化学部 文化学科

(単位:人)			
授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーションIA	277	英語コミュニケーションII応用エッセーライティング	19
英語コミュニケーションIB	189	情報処理概論	126
英語コミュニケーションIC	未開講	コンピュータリテラシー	129
英語コミュニケーションID	未開講	ビジネスリテラシー	1
英語コミュニケーションII基礎プレゼンテーション	30	日本語表現法	0
英語コミュニケーションII応用プレゼンテーション	17		
英語コミュニケーションII基礎エッセーライティング	30		

###### ○看護学部 看護学科

(単位:人)			
授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーションIA	148	英語コミュニケーションII応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションIB	84	情報処理概論	21
英語コミュニケーションIC	未開講	コンピュータリテラシー	73
英語コミュニケーションID	未開講	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションII基礎プレゼンテーション	4	日本語表現法	1
英語コミュニケーションII応用プレゼンテーション	3		
英語コミュニケーションII基礎エッセーライティング	1		

###### ○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)			
授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーションIA	132	英語コミュニケーションII応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションIB	76	情報処理概論	18
英語コミュニケーションIC	未開講	コンピュータリテラシー	76
英語コミュニケーションID	未開講	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションII基礎プレゼンテーション	8	日本語表現法	0
英語コミュニケーションII応用プレゼンテーション	6		
英語コミュニケーションII基礎エッセーライティング	0		

###### ○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)			
授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーションIA	72	英語コミュニケーションII応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションIB	42	情報処理概論	39
英語コミュニケーションIC	未開講	コンピュータリテラシー	40
英語コミュニケーションID	未開講	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションII基礎プレゼンテーション	6	日本語表現法	0
英語コミュニケーションII応用プレゼンテーション	4		
英語コミュニケーションII基礎エッセーライティング	0		

## データサイエンス入門

(単位:人)

授業科目	受講者数
ITリテラシー	178
データサイエンス入門	69

## 教養基礎科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
科学と人間	28	経済学	51
基礎化学	43	倫理学	0
基礎生物学	347	哲学	0
社会調査基礎論	15	文学	0
日本国憲法	188	基礎ジェンダー学	184
法学	63	心理学	213
政治学	205		

## 課題別教養科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
生活と社会福祉	145	労働と人権	0
現代生活論	142	地域とグローバリゼーション	0
自然災害と防災の科学	244	家族関係論	210
平和論	0	異文化理解海外フィールドワーク	12
現代人権論	106	人権教育論	134
ジェンダーとキャリア	63		

## 健康・スポーツ科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	220	健康とヘルスプロモーション	59
健康スポーツ科学Ⅱ	217	栄養と健康	48
対人関係とメンタルヘルス	168		

## 域学共生科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
地域学概論	381	専門職連携論	69
土佐の歴史と文化	151	チーム形成論	59
土佐の経済とまちづくり	32	地域学実習Ⅰ	345
土佐の自然と暮らし	141	地域学実習Ⅱ	153
土佐の食と健康	184	域学共生実習	15

## 【学部】

### (2)専門教育科目

#### ○文化学部 文化学科

(その1)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数		
文化学部共通科目	リテラシー科目	基礎演習	161	異文化理解III	5		
		中国語基礎I	83	国際日本学	32		
		中国語基礎II	77	比較日本学II(～2018)	0		
		ドイツ語基礎I	26	比較日本学	10		
		ドイツ語基礎II	24	国際関係論	13		
		フランス語基礎I	60	国際開発論	26		
		フランス語基礎II	56	国際文化専門演習I	46		
		日本語I	5	国際文化専門演習II	1		
		日本語II	4	日本語史	83		
		情報処理演習	179	日本語音声学・音韻論	78		
		文献調査論	95	日本語学講読	112		
		基礎読書法	79	日本語文章構成論	42		
		文化哲学	151	国語教育学講読I	34		
		文化人類学	144	国語教育学講読II	23		
		文化と権利	192	日本語教育学概論	28		
文化と裁判	74	日本語教育教材論	9				
公共哲学	91	日本語学専門演習I	45				
民俗学	141	日本語学専門演習II	38				
文化と経済	83	基礎古典	40				
日本文学概論	110	日本文学史(古典)	56				
言語学概論	130	日本文学史(近代)	45				
日本語学概論	105	古典文学基礎講読I	98				
グローバル平和論	194	古典文学基礎講読II	43				
社会調査論	94	古典文学講読I	56				
域学共生フィールドワーク	44	古典文学講読II	42				
文化学課題研究ゼミナールI	160	近代文学講読	93				
文化学課題研究ゼミナールII	161	現代文学講読	38				
文化学課題研究ゼミナールIII	141	中国文学史	41				
文化学課題研究ゼミナールIV	148	中国文学講読(散文)	48				
科 目	アキ 形 ヤ 成 リ	キャリアデザイン論	170	中国文学講読(韻文)	34		
		キャリア形成論	177	日本文学専門演習I	46		
		企業実習	40	日本文学専門演習II	43		
文化学部専門科目	英語学領域 言語文化系	英語学概論	29	書道	22		
		比較言語研究	30	地域文化論	133		
		対照言語学	10	日本思想史	30		
		言語教育実践論I	8	日本文化論	95		
		言語教育実践論II	4	地域文化資源論I	40		
		英語文法論	49	地域文化資源論II	90		
		英語ライティングI	37	文化政策論	138		
		英語ライティングII	8	男女共同参画社会論	18		
		英語音声学	32	地域防災論	66		
		英語スピーキングI	14	住文化論	123		
		英語スピーキングII	8	地域文化専門演習I	20		
		英語学専門演習I	28	地域文化専門演習II	23		
		英語学専門演習II	21	地域づくり論	102		
		国 際 文 化 領 域	国 際 文 化 領 域	英文化・文学史	72	地域産業論	54
				英文化・文学論	40	地域分析論	98
		米文化・文学史	29	地方自治論	54		
		米文化・文学論	23	NPO論	74		
		異文化理解I	31	地域づくりフィールドスタディ	45		
		異文化理解II	16	地域づくり専門演習I	20		
				地域づくり専門演習II	23		

(その2)

(单位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
文化学部専門科目 地域文化創造系 観光文化領域	観光文化論Ⅰ	145	現代法文化領域 地域文化創造系 文化学部専門科目	文化と人権	131
	観光文化論Ⅱ	92		文化と統治システム	98
	景観文化論	117		社会秩序と法	54
	観光と自然環境	140		犯罪と法	100
	観光文化フィールドスタディⅠ	16		情報化社会と法文化	123
	観光文化フィールドスタディⅡ	11		地域社会と法文化	107
	観光フィールド専門演習Ⅰ	35		現代法文化専門演習Ⅰ	11
	観光フィールド専門演習Ⅱ	29		現代法文化専門演習Ⅱ	11
	観光学総論	122	生活法文化領域 地域文化創造系 文化学部専門科目	生活と法文化	126
	観光まちづくり論Ⅰ	65		災害と法	186
文化学部専門科目 地域文化創造系 観光まちづくり領域	観光まちづくり論Ⅱ	0		ワーク・ライフ・バランスと法	17
	観光産業論(～2018)	0		労働契約と法文化	25
	観光産業論Ⅰ	68		社会保障と法文化	58
	観光産業論Ⅱ	14		家族関係と法文化	52
	観光企画論	68		生活法文化専門演習Ⅰ	13
	観光まちづくりフィールドスタディⅠ	14		生活法文化専門演習Ⅱ	10
	観光まちづくりフィールドスタディⅡ	36			
	観光まちづくり専門演習Ⅰ	38			
	観光まちづくり専門演習Ⅱ	28			

## ○看護学部 看護学科

(その1)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
専門基礎科目	医学の世界	82	看護援助学	症状と看護	81
	生化学	82		看護援助の動向と課題	0
	栄養学	82		ふれあい看護実習	83
	薬理学	82		看護基盤実習	81
	微生物学	81		看護実践能力開発実習 I	80
	人体の構造 I	82	看護管理学	看護システム論	82
	人体の構造 II	83		看護サービス論	83
	人体の機能 I	101		看護教育論	0
	人体の機能 II	96		看護管理の動向と課題	0
	人体のしくみの乱れ I	84		チーム医療実習	85
	人体のしくみの乱れ II	86		看護管理実習	82
	心のしくみ	83	看急性期	急性期看護論	80
	診断学	88		急性期看護援助論	83
	治療学総論	81		回復期看護援助論	80
	病態と治療 I	80		急性期看護の動向と課題	0
	病態と治療 II	91		急性期看護実習	85
	病態と治療 III	80	看慢性期	慢性期看護論	80
	小児と疾患	83		慢性期看護援助論	83
	公衆衛生学	80		終末期看護援助論	85
	健康管理論	83		慢性期看護の動向と課題	0
	保健統計学	80		慢性期看護実習	85
	疫学	85	看老人看護学	老人看護学総論	81
	地域保健政策	82		老人の健康と看護	81
	生命の科学と倫理	43		老人看護援助論	80
	医療史	0		老人看護の動向と課題	0
	社会保障と看護	1	看護臨床科目	精神看護学総論	81
	心理学と心理的支援	27		精神の健康と看護	80
	行動科学	9		精神看護援助論	84
	保健行動論	1		精神看護の動向と課題	0
	人間工学	0		精神看護実習	85
	在宅医療	5	小児看護学	小児看護学総論	81
	医療と経営	8		小児の健康と看護	81
	助産学	13		小児看護援助論	83
	助産診断論	12		小児看護の動向と課題	3
	看護基礎学	82		小児看護実習	85
看護基礎科目	人間と看護	82	母性看護学	母性看護学総論	81
	健康と看護	81		母性看護対象論	0
	環境と看護	83		母性の健康と看護	80
	看護研究方法論	83		母性看護援助論	83
	看護哲学と倫理	83		母性看護の動向と課題	0
	生活と看護	82		母性看護実習	86
	生活援助論	164	助産看護学	助産看護学総論	8
	看護過程論	81		助産看護診断論	8
	援助関係論	83		助産技術論 I	8
	フィジカルアセスメント	83		助産技術論 II	8
	治療援助論	81		助産看護援助論	8
				助産看護管理論	8
				助産看護の動向と課題	8
				助産看護実習 I	8
				助産看護実習 II	8

(その2)

(単位:人)

		授業科目	受講者数		授業科目	受講者数
看護臨床科目	在宅看護学	在宅看護学総論	83		グローバル社会と看護Ⅰ	84
		在宅看護対象論	83		グローバル社会と看護Ⅱ	0
		在宅看護援助論	82		異文化理解看護フィールドワーク	5
		在宅看護リエゾン論	0		看護地域フィールドワーク	60
		在宅看護の動向と課題	0		看護学の動向と課題	0
		在宅看護実習	82		看護セミナーⅠ	82
	地域看護学	地域看護学総論	80		看護セミナーⅡ	6
		地域の健康と看護	83		看護セミナーⅢ	4
		地域看護援助論	83		看護セミナーⅣ	83
		地域看護の動向と課題	2		看護セミナーⅤ	83
		地域看護実習	79		臨床看護論Ⅰ	5
	保健学	学校保健	14		臨床看護論Ⅱ	23
		養護概説	19		臨床看護論Ⅲ	49
総合科目	看護実践能力開発実習	看護研究	83		臨床看護論Ⅳ	0
		看護と政策	82		臨床看護論Ⅴ	0
		がん看護論	83		臨床看護論Ⅵ	8
		総合看護実習	83		母性・助産看護実践論	0
		総合看護実習Ⅰ	0		精神看護実践論	1
		総合看護実習Ⅱ	0		急性期看護実践論	0
		家族看護実習	0		小児看護実践論	8
		看護実践能力開発実習	82		地域看護実践論	0
		看護実践能力開発実習Ⅱ	0		老人看護実践論	0
		バイオロジカルナーシング	5		看護実践論Ⅰ	0
		治療と看護	11		看護実践論Ⅱ	0
		情報と看護	2		看護実践論Ⅲ	0
		災害と看護	56		看護実践論Ⅳ	0
		災害看護実践論	0		医学と看護の統合	81
					最新実践看護講座Ⅰ	0
					最新実践看護講座Ⅱ	2

## ○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
基本科目	福祉対象入門	78	地域・国際福祉科目	チームアプローチ	4
	福祉援助入門	80		スーパービジョン	7
	社会福祉入門演習	77		地域福祉論 I	71
	社会福祉基礎演習	75		地域福祉論 II	71
	心理学と心理的支援	84		地域福祉活動	8
	社会学と社会システム	74		国際福祉論	47
	社会福祉の原理と政策 I	79		コミュニティソーシャルワーク	17
	社会福祉の原理と政策 II	78		福祉NPO論	38
	社会福祉史	69		子育て支援論	7
	介護技術	18		虐待防止論	52
社会福祉制度科目	社会保障論 I	77	支援会科復目帰	ケアマネジメント論	33
	社会保障論 II	76		ケアマネジメント演習	5
	公的扶助論	70		ケアプラン策定法	3
	障害者福祉論	70		就労支援サービス(～2020)	0
	児童・家庭福祉論	72		精神障害リハビリテーション論	57
	高齢者福祉論 I	77	精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習(～2020)	0
	高齢者福祉論 II	69		精神保健福祉援助演習 I	26
	精神保健福祉の原理	22		精神保健福祉援助演習 II	9
	精神保健福祉制度論	25		精神保健福祉援助実習指導 I	26
	福祉行財政と福祉計画(～2020)	0		精神保健福祉援助実習指導 II	9
	福祉サービスの組織と経営	74		精神保健福祉援助実習 I	9
	権利擁護論	68		精神保健福祉援助実習 II	9
	更生保護制度	67	介護福祉理解科目	介護の基本 I	14
	保健医療サービス	70		介護の基本 II	15
	女性福祉論	42		介護の基本 III	9
	医療福祉論	59		コミュニケーション技術	12
	医学概論	82		生活支援技術 I	14
	精神医学 I	29		生活支援技術 II	12
	精神医学 II	27		生活支援技術 III	15
	精神保健学 I	57		生活支援技術 IV	15
	精神保健学 II	36		生活支援技術 V	9
	発達と老化の理解 I	18		介護過程 I	12
からだとこころの理解科目	発達と老化の理解 II	12		介護過程 II	15
	認知症の理解 I	27		介護過程 III	15
	認知症の理解 II	21		介護過程 IV	9
	障害の理解 I	16	介護福祉実践科目	介護総合演習 I	12
	障害の理解 II	19		介護総合演習 II	15
	こころとからだのしくみ I	17		介護総合演習 III	10
	こころとからだのしくみ II	12		介護総合演習 IV	20
	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	77		介護実習 I	12
ソーシャルワーカー基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	78		介護実習 II	15
	ソーシャルワークの理論と方法 I	71		介護実習 III	10
	ソーシャルワークの理論と方法 II	71		医療的ケア I	10
	ソーシャルワークの理論と方法 III	70		医療的ケア II	20
	ソーシャルワークの理論と方法 IV	72	総合科目	福祉研究法入門	71
	ソーシャルワークの理論と方法(精神)	0		社会福祉調査の基礎	77
	面接技法	43		社会福祉専門演習 I	75
	医療ソーシャルワーク論	47		社会福祉専門演習 II	74
	ソーシャルワーク演習 I	70		社会福祉専門演習 III	69
	ソーシャルワーク演習 II	69		社会福祉専門演習 IV	68
ソーシャルワーカー実践科目	ソーシャルワーク演習 III	72			
	ソーシャルワーク演習 IV	72			
	ソーシャルワーク演習 V	73			
	ソーシャルワーク実習指導 I	69			
	ソーシャルワーク実習指導 II	69			
	ソーシャルワーク実習指導 III	72			
	ソーシャルワーク実習 I	29			
	ソーシャルワーク実習 II	73			
	ソーシャルワーク実習 III	73			
	事例研究法	8			
	実践記録法	2			

## ○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
科基 目基礎	健康栄養学基礎	41	栄 養 教 育 論	栄養教育論 I	41
	健康栄養学応用	46		栄養教育論 II	42
社会・環境と健康	地域健康論	42		栄養教育論 III	42
	介護論	42		栄養教育論実習 I	42
	食と介護	42		栄養教育論実習 II	42
	保健医療福祉論	42		学校栄養指導論 I	8
	地域医療論	3		学校栄養指導論 II	8
	公衆衛生学	42	臨 床 栄 養 学	臨床栄養学 I	41
	環境衛生学実習	42		臨床栄養学 II	42
人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	健康情報論実習	41		臨床栄養学 III	42
	生化学 I	41		臨床実践栄養学	42
	生化学 II	41		臨床栄養学実習 I	42
	生化学実験	42		臨床栄養学実習 II	42
	人体の構造と機能 I	41	栄 公 衆 栄 養 学	公衆栄養学 I	43
	人体の構造と機能 II	41		公衆栄養学 II	42
	臨床医科学	1		地域公衆栄養学実習	43
食べ物と健康	疾病論 I	41	給 食 管 理 論	給食経営管理論	41
	疾病論 II	41		給食計画論	41
	運動生理学	41		給食経営管理実習 I	42
	生体科学実験・実習	41		給食経営管理実習 II	42
	食品学	41	演 習 合 習	管理栄養士総合演習 I	42
	食品学実験 I	41		管理栄養士総合演習 II	42
	食品学実験 II	41	臨 地 実 習	給食経営管理臨地実習	84
	食材学	41		臨床栄養学臨地実習 I	42
	食品の栄養素と機能	41		臨床栄養学臨地実習 II	42
	食品衛生学	41		地域公衆栄養学臨地実習	42
	食品衛生学実験	41		地域実践栄養学臨地実習	3
	フードシステム学	31	その 他	企業実習	0
	調理学	41		健康栄養フィールドワーク	40
	調理学実習 I	41		HACCP管理論	40
	調理学実習 II	41	研 課 題	卒業研究	43
	調理学実習 III	38			
	調理科学実験	2			
栄基 養基礎	基礎栄養学	43			
栄 養 応 用	基礎栄養学実験	41			
	応用栄養学 I	42			
	応用栄養学 II	41			
	応用栄養学実習	40			
	ライフステージ栄養学	41			

## 【学部】

### (3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数	
教育原理	43	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	2
教育基礎理論	28		教育実習Ⅱ	2
教師論	70		養護実習	8
教育社会学	64		学校栄養教育実習	9
発達心理学	37		教職実践演習(中・高)	19
教育心理学	46		教職実践演習(養護)	8
特別支援教育概論	86		教職実践演習(栄養)	9
教育課程論	59		国語科教育法Ⅰ	17
道徳教育論	69		国語科教育法Ⅱ	17
特別活動論	44		国語科教育法Ⅲ	1
教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	81		国語科教育法Ⅳ	0
情報通信技術を活用した教育の理論と方法	31		英語科教育法Ⅰ	8
生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	80		英語科教育法Ⅱ	7
教育相談及びキャリア教育の理論と方法	74		英語科教育法Ⅲ	1
			英語科教育法Ⅳ	1

# 【 大学院 】

## ○看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）

(その1)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
大学院共通科目	研究と倫理	2	慢性看護学領域	慢性看護論	1
	教育学特論	未開講		慢性看護対象論	1
	教育心理学特論	2		慢性看護方法論 I	1
	ジェンダー論	未開講		慢性看護方法論 II	未開講
	臨床倫理	5		慢性疾患診断治療学 I	1
	グローバルヘルス論	4		慢性疾患診断治療学 II	未開講
	ケア論	0		慢性看護学実践演習 I	1
	看護マネジメント論	5		慢性看護学実践演習 II	未開講
	看護理論と実践	8		慢性看護学実践演習 III	1
	看護学基盤論	5		慢性看護学実践演習 IV	未開講
専攻共通科目	看護研究と実践	9		慢性看護学実践演習 V	未開講
	看護倫理	8	クリティカルケア看護学領域	クリティカルケア看護論 I	1
	看護サービス管理論	8		クリティカルケア看護論 II	1
	看護コンサルテーション論	9		クリティカルケア看護方法論 I	1
	フィジカルアセスメント特論	8		クリティカルケア看護方法論 II	未開講
	病態生理学	8		クリティカルケア看護方法論 III	1
	臨床薬理学	8		クリティカルケア看護方法論 IV	未開講
	こころの発達	3		クリティカルケア診断治療学 I	未開講
	データ分析方法論 I	7		クリティカルケア診断治療学 II	1
	看護教育論 I	8		クリティカルケア看護学実践演習 I	1
共通科目	看護教育論 II	11		クリティカルケア看護学実践演習 II	未開講
	疫学研究方法論	1		クリティカルケア看護学実践演習 III	未開講
	保健医療政策と経済 I	8		クリティカルケア看護学実践演習 IV	1
	保健医療政策と経済 II	12		クリティカルケア看護学実践演習 V	未開講
	看護学の動向と展望	10	母性看護学領域	女性健康看護論	未開講
	最新専門看護実践講座 I	5		女性健康支援論	未開講
	最新専門看護実践講座 II	7		子育て包括ケアシステム論	未開講
	インディベントスタディ	0		女性の健康危機マネジメント論	未開講
	看護理論と研究 I	未開講		母性看護フィールド演習 I	未開講
共創看護学領域	看護理論と研究 II	3		母性看護フィールド演習 II	未開講
	学際的研究方法	未開講	小児看護学領域	小児看護論	1
	データ分析方法論 II	未開講		小児看護対象論	1
	看護学英語	未開講		小児看護方法論 I	1
	共創看護学セミナー	未開講		小児看護方法論 II	2
がん看護学領域	バイオメトリクス看護学演習	未開講		小児診断治療学 I	3
	がん看護論	1		小児診断治療学 II	未開講
	緩和ケア特論	1		小児看護学実践演習 I	1
	がん看護方法論 I	1		小児看護学実践演習 II	2
	がん看護方法論 II	未開講		小児看護学実践演習 III	2
	がん看護方法論 III	未開講		小児看護学実践演習 IV	1
	がん病態生理学	1		小児看護学実践演習 V	2
	がん診断治療学	1			
	がん薬理学	未開講			
	がん看護学実践演習 I	1			
	がん看護学実践演習 II	未開講			
	がん看護学実践演習 III	未開講			
	がん看護学実践演習 IV	未開講			
	がん看護学実践演習 V	未開講			

(その2)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
老人看護学領域	老人看護論	1	地域看護学領域	地域看護論	未開講
	老人看護対象論	1		地域ケアシステム論	未開講
	老人看護方法論	未開講		地域看護展開論	未開講
	老人ケアシステム論	未開講		地域フィールド演習 I	未開講
	老人看護展開論 I	1		地域フィールド演習 II	未開講
	老人看護展開論 II	1		災害看護論	未開講
	老年病診断治療学 I	1		グローバル社会看護論	未開講
	老年病診断治療学 II	未開講		災害・国際看護方法論	未開講
	老人看護学実践演習 I	1		感染症看護セミナー	未開講
	老人看護学実践演習 II	1		環境衛生看護セミナー	2
精神看護学領域	老人看護学実践演習 III	未開講		共生社会看護セミナー	未開講
	老人看護学実践演習 IV	未開講		人道支援看護セミナー	1
	老人看護学実践演習 V	未開講		災害看護管理セミナー	3
	精神看護論	1		災害看護活動論(準備期)	2
	精神看護対象論	1		環境防災学	3
	精神看護方法論 I	1	看護管理学領域	看護管理論	0
	精神看護方法論 II	未開講		システム経営管理論	0
	精神看護展開論 I	未開講		看護管理展開論	0
	精神看護展開論 II	未開講		看護管理の動向と展望	0
	精神看護展開論 III	未開講		看護管理学実践演習 I	未開講
領域専門科目	精神看護展開論 IV	未開講		看護管理学実践演習 II	未開講
	精神看護展開論 V	未開講		看護管理学実践演習 III	未開講
	精神診断治療学 I	未開講	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	2
	精神診断治療学 II	1		老人看護ケア研究	3
	精神看護学実践演習 I	1		がん看護ケア研究	1
	精神看護学実践演習 II	1		小児看護ケア研究	0
	精神看護学実践演習 III	未開講		慢性看護ケア研究	3
	精神看護学実践演習 IV	未開講		クリティカルケア研究	2
	精神看護学実践演習 V	未開講		臨床看護管理研究	2
	家族看護論	2		臨床看護教育研究	2
科目	家族看護対象論	2		母性・助産看護ケア研究	未開講
	家族看護方法論 I	8	地域保健学領域	地域ケア研究	0
	家族看護方法論 II	8		学校保健研究	0
	家族看護実践論 I	1		家族ケア研究	2
	家族看護実践論 II	0		在宅ケア研究	2
	家族療法	5		保健学研究	0
	家族ケアの開発	1		災害・国際看護ケア研究	1
	家族看護学実践演習 I	2		看護課題研究	1
	家族看護学実践演習 II	2		看護学研究方法 I	未開講
	家族看護学実践演習 III	1		看護学研究方法 II	1
在宅看護学領域	家族看護学実践演習 IV	1	研究支援科目	看護教育学専門演習	1
	家族看護学実践演習 V	1	看護教育学研究方法 I	未開講	
	在宅看護論	未開講	看護教育学研究方法 II	未開講	
	在宅看護方法論 I	未開講	臨床看護学専門演習	1	
	在宅看護方法論 II	1	臨床看護学研究方法 I	1	
	在宅看護方法論 III	1	臨床看護学研究方法 II	1	
	在宅ケアシステム論	1	地域保健学専門演習	1	
	在宅看護展開論 I	未開講	地域保健学研究方法 I	1	
	在宅看護展開論 II	未開講	地域保健学研究方法 II	1	
	在宅療養診断治療学 I	1			

## ○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数	
専攻共通科目	理論看護学 I	3	精神看護学 I	0
	理論看護学 II	3	精神看護学 II	0
	看護学研究方法 I	3	家族看護学 I	1
	看護学研究方法 II	3	家族看護学 II	0
	看護倫理学	0	在宅看護学 I	0
	イノベーション看護学	未開講	在宅看護学 II	0
	国際看護学	2	地域看護学 I	0
	医学研究方法論	0	地域看護学 II	0
	インディペンデントスタディ	0	学校保健学 I	0
	プロフェッショナルライティング	0	学校保健学 II	1
専攻専門科目	共創看護学 I	0	災害・国際看護学 I	0
	共創看護学 II	0	災害・国際看護学 II	0
	がん看護学 I	1	看護病態生理学 I	0
	がん看護学 II	1	看護病態生理学 II	0
	成人看護学 I	0	看護経営管理学 I	0
	成人看護学 II	0	看護経営管理学 II	0
	小児看護学 I	0	看護学特別研究 I	6
	小児看護学 II	0	看護学特別研究 II	7
	老人看護学 I	0	看護学特別研究 III	8
	老人看護学 II	0		

## ○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数	
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講	災害看護ゼミナールA	未開講
	理論看護学	未開講	災害看護ゼミナールB	未開講
	危機管理論	未開講	災害看護ゼミナールC	未開講
	環境防災学 I	未開講	災害看護ゼミナールD	未開講
	環境防災学 II	未開講	災害看護ゼミナールE	未開講
	グローバルヘルス	未開講	インディペンデントスタディ I	0
	災害法制度と政策論	未開講	インディペンデントスタディ II	0
	専門職連携実践論	未開講	インディペンデントスタディ III	0
	災害時専門職連携演習(災害IP演習)	未開講	インディペンデントスタディ IV	0
	災害医療学	未開講	インディペンデントスタディ V	0
	災害心理学	未開講	災害看護研究ゼミナール	未開講
	災害と文化	未開講	実践課題研究	未開講
	災害社会福祉学	未開講	災害看護研究デベロップメント	1
	Professional writing	未開講	博士論文	8(2)
災害看護学の専門科目群	Proposal writing (Research proposal writing skill)	未開講		
	Program writing (Program Proposal writing skill)	未開講		
	災害看護学総論	未開講		
	災害看護活動論 I (急性期)	未開講		
	災害看護活動論 II (亜急性期)	未開講		
	災害看護活動論 III (復旧・復興)	未開講		
	災害看護活動論 IV (備え)	未開講		
	災害看護グローバルコーディネーション論	未開講		
	災害看護リーダーシップ・管理論	未開講		
	災害看護倫理	未開講		

※カッコ内は本学の受講者数

## ○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
共通科目	研究と倫理	10	社会福祉学領 域科目	高齢	介護福祉論	未開講
	教育学特論	未開講		高齢者福祉論		4
	教育心理学特論	7		障害	障害者福祉論	未開講
	ジェンダー論	未開講		精神保健福祉論		未開講
	臨床倫理	0		家童・児庭	児童支援福祉論	4
	グローバルヘルス論	0			家族支援福祉論	未開講
	ケア論	0	地域文化		地域文化論 I	未開講
	看護マネジメント論	0			地域文化論 II	0
	研究方法論 I	11			地域文化論 III	未開講
	研究方法論 II	9			観光文化論 I	1
	研究方法論 III	3			観光文化論 II	8
研究科目	データ解析論	8			観光文化論 III	未開講
	地域資源論	未開講	日本文化		日本文化論 I	2
	健康リハビリテーション論	7			日本文化論 II	未開講
	福祉マネジメント論	4			日本語文化論	3
	食物科学	8			文学 I	2
	食品生化学特論	未開講			文学 II	未開講
	食品製造学特論	8			文学 III	未開講
栄養・生活学領域科目	食物科学論	未開講	英語文化		英語文化論 I	1
	食物科学実践演習	未開講			英語文化論 II	未開講
	栄養学	未開講			英語文化論 III	2
	栄養学特論	未開講			英語言語文化論特論 I	未開講
	臨床栄養学特論	4			英語言語文化論特論 II	未開講
	健康動態論	未開講			国際日本学	0
	栄養疫学論	7	科指導研究目導 導研究		栄養・生活学課題研究演習	1
	栄養・生活特論 I	3			社会福祉学課題研究演習	2
	栄養・生活特論 II	6			文化学課題研究演習	1
	栄養・生活統計論	未開講				
	環境生態論	4				
	災害栄養フード・アセスメント論	未開講				
社会福祉学領域科目	基礎専門	4				
	社会福祉原論	未開講				
	福祉リハビリテーション論	未開講				
	ソーシャルワーク論	未開講				
	社会保障論	5				
	福祉行財政論	未開講				
	多会地文・域化	未開講				
	地域福祉論	未開講				
	地域福祉政策論	5				
	国際福祉論	4				
	多文化福祉論	未開講				

## ○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
専門科目	科共目通	研究デザイン	専門科目	地域文化学 I	0
		研究倫理		地域文化学 II	0
	学栄領域・科生目活	地球環境解析学		言語文化学 I	0
		環境生態学		言語文化学 II	0
		人間栄養学		栄養・生活学特別研究 I	0
		食品機能学	研究指導科目	栄養・生活学特別研究 II	1
		健康動態学		栄養・生活学特別研究 III	1
	領域科目	介護福祉学		社会福祉学特別研究 I	0
		障害者福祉学		社会福祉学特別研究 II	1
		児童・家族福祉学		社会福祉学特別研究 III	1
		地域ソーシャルワーク学		文化学特別研究 I	0
		国際福祉政策学		文化学特別研究 II	0
		福祉リハビリテーション学		文化学特別研究 III	0

※「未開講」…隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」…年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかつたもの

### 3 科目等履修生・特別聴講学生の状況

#### (1)科目等履修生

(単位:人)

授業科目	受講者数
日本語音声学・音韻論	1
日本語学講読	1
日本語教育学概論	1

#### (2)特別聴講学生

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
基礎演習	4	土佐の自然と暮らし	1
中国語基礎Ⅰ	2	地域学概論	4
フランス語基礎Ⅰ	2	中国語基礎Ⅱ	2
ドイツ語基礎Ⅰ	1	フランス語基礎Ⅱ	2
日本語Ⅰ	4	ドイツ語基礎Ⅱ	1
日本文学概論	1	日本語Ⅱ	3
言語学概論	2	情報処理演習	1
英語文法論	3	文化人類学	1
日本文化論	1	文化と経済	2
日本語音声学・音韻論	2	グローバル平和論	2
文化と権利	1	英語学概論	1
国際日本学	1	犯罪と法	1
観光学総論	1	生活と法文化	2
英語コミュニケーションIA	4	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	2
コンピュータリテラシー	3	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	2
科学と人間	1	近代文学講読	1
基礎ジェンダー学	1	基礎化学	1
経済学	1	健康スポーツ科学Ⅱ	2
心理学	3	基礎生物学	1
対人関係とメンタルヘルス	3	土佐の歴史と文化	3
健康スポーツ科学Ⅰ	1	ITリテラシー	3

#### 4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

##### (1)教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	15	18	17
		中一種免(英語)	5	8	4
		高一種免(英語)	5	10	13
		中一種免(国語)	10	8	4
		高一種免(国語)	10	10	13
	教員就職者数		7	15	10
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	13	12	8
		一種免(養護)	13	12	8
	教員就職者数		6	5	2
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	4	15	9
		一種免(栄養)	4	15	9
	教員就職者数		0	2	3
看護学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	1	1
		高専修免(看護)	0	0	0
		養教専修免	1	1	1
人間生活学研究 科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	0		
		中専修免(英語)	0		
		高専修免(英語)	0		
		栄教専修免	0		
合 計	免許状取得者数(実人数)		33	46	35
	教員就職者数		13	22	15

※教員就職者数は正規採用者と臨時の任用者との合計

##### (2)国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受験日	区分	受験者数	合格者数	合格率
看護師	令和7年2月16日	新卒	81	81	100.0%
		既卒	0	0	
保健師	令和7年2月14日	新卒	73	72	98.6%
		既卒	0	0	
助産師	令和7年2月13日	新卒	8	7	87.5%
		既卒	0	0	
社会福祉士	令和7年2月2日	新卒	61	57	93.4%
		既卒	9	1	11.1%
精神保健福祉士	令和7年2月1日 令和7年2月2日	新卒	9	9	100.0%
		既卒	0	0	
介護福祉士	令和7年1月26日	新卒	20	20	100.0%
		既卒	0	0	
管理栄養士	令和7年3月2日	新卒	42	37	88.1%
		既卒	11	4	

**(3)専門看護師・認定看護管理者合格状況**

(単位:人)

専門看護分野名	合格者数
がん看護	3
慢性疾患看護	0
急性・重症患者看護	2
小児看護	0
精神看護	1
家族支援看護	2
在宅看護	0
老人看護	1
認定看護管理者	0

## 5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

### (1) 学位等授与状況

#### ○博 士

(単位:人)

研究科名	博 士	
	令和6年度	累 計
看護学研究科(博士後期課程)	8	52
看護学研究科(博士課程)	1	8
人間生活学研究科(博士後期課程)	0	15
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合 計	9	125

#### ○修 士

(単位:人)

研究科名	修 士	
	令和6年度	累 計
看護学研究科(博士前期課程)	11	353
人間生活学研究科(博士前期課程)	5	205
合 計	19	558

### 【学位授与者一覧】

#### ○博 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和6年9月24日	博士(看護学)	宮宇地 秀代	看護師と維持血液透析患者の透析生活を続けるための協働—透析看護認定看護師の語りから—
令和6年9月24日	博士(看護学)	柱谷 久美子	救急医療機関での自殺未遂者ケアにおける看護師の関心の構造とプロセス
令和7年3月21日	博士(看護学)	中谷 信江	がんサバイバーの健康維持・回復のための自己調整と関連要因
令和7年3月21日	博士(看護学)	田鍋 雅子	レジリエントな看護組織に関する研究
令和7年3月21日	博士(看護学)	長田 瞳子	慢性疾患をもつ思春期の子どものストレングスを活かす看護実践の様相—小児看護専門看護師の語りから—
令和7年3月21日	博士(看護学)	小山 裕子	外来通院中のがんサバイバーの生活調整におけるヘルスリテラシー
令和7年3月21日	博士(看護学)	加藤 昭尚	手術室看護師のやりがいに関する研究
令和7年3月21日	博士(看護学)	石橋 かず代	青年期小児慢性疾患患者のセルフマネジメントを支援する親のコンコーダンスへの取り組み
令和7年3月21日	博士(看護学)	増田 みちる	地域住民の減災意識と行動の向上～経験学習の視点から～

#### ○修 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和6年9月24日	修士(看護学)	大野 由貴	集中治療部門に勤務する中堅看護師の職場における学習行動
令和7年3月21日	修士(看護学)	川野 智代	1型糖尿病をもつ青年のヘルスリテラシー
令和7年3月21日	修士(看護学)	猪野 彰子	職業的アイデンティティと看護管理者の承認がワーク・エンゲイジメントに与える影響
令和7年3月21日	修士(看護学)	岡林 聰子	高校教員が捉えた不登校の経験がある発達障害児のストレス対処スキルとその関わり

## ○修士(続き)

授与年月日	学位の種類	氏名	論文名
令和7年3月21日	修士(看護学)	尾崎 裕美	訪問看護師の多職種連携行動と職場環境に関する研究
令和7年3月21日	修士(看護学)	窪内 真巳子	在宅療養者のスピリチュアリティと訪問看護師のスピリチュアルケア実践の実態
令和7年3月21日	修士(看護学)	小松原 大典	統合失調症患者への看護におけるコミュニケーションの深さ、快適さ、感情経験、感情反応に関する一連の研究
令和7年3月21日	修士(看護学)	駒村 元貴	キャリア中期における看護師のキャリア・プラトーとキャリア自律に関する研究
令和7年3月21日	修士(看護学)	駒村 里香	療養期間を経て家族員との死別を経験した家族の生活の編みなおし
令和7年3月21日	修士(看護学)	狭間 由紀	侵襲的処置を受ける幼児の最善の利益を守るための熟練看護師の臨床判断
令和7年3月21日	修士(看護学)	元吉 直子	学童期の不登校の子供を持つ家族のエンパワーメントをもたらす養護教諭の支援
令和7年3月21日	修士(社会福祉学)	相原 伸行	障害のある人に対する意思決定支援によるエンパワーメントの影響に関する研究—障害者虐待の認識に関する地域の特徴と意思決定支援による活路—
令和7年3月21日	修士(社会福祉学)	土居 桃子	5歳児クラスの描画発達の遅れを取り戻す発達支援に関する一考察—久武玲子の保育実践に着目して—
令和7年3月21日	修士(生活科学)	松本 あすか	サッカークラブ・ジュニアユース選手を対象とした栄養教育の効果に関する研究
令和7年3月21日	修士(社会福祉学)	山本 大慈	生きづらさを経験した支援者が「当事者」として生きる軌跡-8名が見つめるライフヒストリーに着目して-
令和7年3月21日	修士(生活科学)	LUO HAO	コルチコステロン投与うつ病モデルマウスに対する高脂肪食の投与:うつ様行動、及び脳機能への影響

## (2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称号	授与者人数(人)	部局内訳
令和7年3月21日	地域共生推進士	14	文化学部11名、看護学部3名

## (3)日本語教員授与状況

授与年月日	称号	授与者人数(人)
令和7年3月21日	日本語教員	2

## (4)履修証明書授与状況

授与年月日	称号	授与者人数(人)
-	履修証明書	-

※令和6年度は開講せず

## (5)大学賞・学長賞授与状況

### 【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
社会福祉学部	社会福祉学科	4	1	現地実習や卒業研究、ボランティア活動において地域貢献に取り組む真摯な態度によって成果を上げ、優秀な成績を修めた。
人間生活学研究科	人間生活学専攻 博士前期課程	2	1	研究活動に熱意を持って取り組み、その成果として新たな知見の発見と社会に対して多大なる貢献があった。

### 【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	川崎 日菜子 妹尾 侑紀 戸田 桃子	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生を推薦いただき、選考を行った。  今年度は、文化学部9名、看護学部6名、社会福祉学部6名、健康栄養学部3名、計24名の学生が受賞した。
		3	岡本 奈津子 西川 雅帆 千頭 紗綾	
		2	市川 結愛 安岡 沙里 下村 彩巴	
看護学部	看護学科	4	西堀 果歩 松浦 凜	
		3	有馬 朋佳 出張 雄大	
		2	手水 彩夏 御手洗 潤	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	市山 晴貴 東谷 柚香	
		3	井上 萌実 植田 愛唯	
		2	金尾 百笑 安光 乃彩	
健康栄養学部	健康栄養学科	4	橋本 紗希	
		3	宇野 奈津子	
		2	山崎 彩未	

**【学長賞】**

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	市原 舜鷹 内田 太陽 大原 啓暉 久保田 紗菜 松本 遥人 村井 里桜	本学生たちは、本学が行なっている立志社中のを通じ、地域に主体的な活動を引き出すことに貢献することに加え、本学と地域の関係構築に大きく貢献した。
			久保 奈津生 妹尾 侑紀 田中 葵	本学生たちは、RKC高知放送で放送されているラジオ番組「なないろクレヨンUoK！」運営等の活動を通じ、本学及び高知県の情報と魅力を発信し、本活動だけでなく、大学活動全体の振興に大きく貢献した。
			堅田 百音 勢村 由衣 加藤 利凧 戸田 桃子	本学生たちは、高知県の地域の人々の本への関心の向上を目指して、オーテピア高知図書館と協働して活動する学生グループ「オーテピアンズ」として様々な活動を続け、オーテピア高知図書館の振興等に大きく貢献した。
看護学部	看護学科	4	内塚 萌 小川 歩惟 河添 陽菜 杉村 穂乃美	本学生たちは、看護学の知識の普及と健康文化を醸成することを活動目的としている団体、『健援隊』の活動を継続して続け、成果物として防災マップなどを作成するなど、顕著な成果を上げた。
			朝倉 芙架 鎌田 芽依 小松 鈴和 杉野 舞 長崎 穂波 長峯 穂香 藤本 桜	本学生たちは、看護学を学ぶ学生と地域住民の協働による地域交流の促進と、地域づくりを目的とした団体である『いけいけサロン活動』の活動を行い、池地域の町内会活動、そして地域交流の促進と地域づくりに大きく貢献した。
			松下 純子 三上 由夏 山崎 綾音	本学生たちは、『高知県立大学災害看護学生チームSIT』の幹部として、「災害医療について学び、災害の備えや実際の災害発生時に、貢献できる医療人となることをめざした活動』を発展させ、災害医療について広く周知することに大きく貢献した。
社会福祉学部	社会福祉学科	4	十万 さくら 田中 海 田中 小夏 恒石 邙香 戸川 恵美 橋田 知佳 宮田 杏奈	本学生たちは、持続可能な地域づくりに住民とともに取り組む団体「Pシスターズ」のメンバーとして、学生自身が対象地域に入り、課題解決に向けた取り組みに尽力した。
			中川 詩莉	本学生は、1回生時に受講した講義をきっかけとし、2回生時にジェンダーサークルを立上げ、継続して様々な活動を行い、課外活動の枠を超えた成果をあげるとともに、高知新聞などにも取り上げられるなど、本学の名誉を著しく高めました。

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
社会福祉学部	社会福祉学科	4	小笠原 杏樹 岡村 和良 上土井 登夢 永山 よしの	本学生たちは、社会的処方をキーワードに令和6年3月より本学が実施する「土曜の永国寺カフェ」にて、学生スタッフとして構想時から関わり、企画運営に主体的に取り組み、新しい認知症観を地域社会に広めることに貢献した。
			高橋 蓮	本学生は、2023年度から2年間に渡り、リカバリーカレッジ高知の定期講座等へボランティアとして継続して参加し、この活動を支える重要な役割を果たした。
健康栄養学部	健康栄養学科	4	吉川 千尋	本学生は、COME☆RISH(県立大サークル)のメンバーとして4年間、食と人とのふれ合い、街づくり、そして地場産業の維持に貢献する活動に尽力した。
		4	松浦 由依	本学生は、室戸ボランティアーダー、COME☆RISH、こどもみらい塾のメンバーとして、食と人とのふれ合い、こども支援、地域の街づくりに貢献する活動に尽力した。
		4	尾田 撻実	本学生は、こどもみらい塾、COME☆RISHのメンバーとして、食と人とのふれ合い、こども支援、地域の街づくりに貢献する活動に尽力した。

#### (6) サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
文藻外語大学	楊采庭 蕭羽彤 洪梓豪	夏期日本語集中プログラム 2024年7月22日～8月9日	高知県立大学 (国際交流センター)
文藻外語大学 木浦大学校 弘光科技大学 開南大学 イーストアングリア大学	黄少祺、許恬昕 鄭恩在 柯育婷、向育謙 郭瑜庭 Tanya Lee	高知の産業・伝統文化を学ぶ高知県立大学 プログラム 2025年1月24日～1月31日	高知県立大学 (国際交流センター)
木浦大学校	金秀嬪、金洙玭、 崔永洙、李尚泫、 尹守護、金炫宣、 尹在星、朴洗震、 李叡元、金景鎮、 全志玟、李智燮、 朱昭妍、李叡侖、 金成夏	韓国、国立木浦大学校受入プログラム 2025年1月20日～1月31日	高知県立大学 (国際交流センター)
文藻外語大学 慶尚国立大学校	郭幸蠲、孫芳羽 鄭驥殷、李ガウル	2024年度交換留学生	高知県立大学 (国際交流センター)
文藻外語大学	許芷綺 林怡岑	中国語教育実習 2024年10月1日～2025年2月21日	高知県立大学 (文化学部)

## 6 SD・FD活動実施状況

### (1)全学SD・FD

区分	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数(人)	主 催	共 催
S D	能登半島地震の災害支援の実態	島田郁子 (健康栄養学部 准教授)	令和6年7月31日	42	高知県立大学	
	(1)知っていたらいつかは役立つ(?)知識いろいろ (2)入札・契約と法令遵守	(1)井上 隆雄(事務局長) (2)三本 雅宣 (企画調整課 課長)	令和6年8月21日	-	高知県立大学	
F D	障害学生支援の観点から考える授業の工夫	高橋 由子 (高知大学 学び創造センター 特任助教)	令和6年12月13日	61	総務・危機管理本部FD専門部会	

### (2)部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数(人)	主 催	共 催
学 文 部 化	「基礎演習」指導状況および新1回生の状況	「基礎演習」担当教員7名	令和6年7月22日	21	文化学部FD委員会	
看護学部・看護学研究科	統計勉強会	山田 覚 (看護学研究科 特任教授)	令和6年4月22日	8	図書課	
	Web of Scienceトレーニングサミット	クラリベイト社	令和6年4月23日	26	図書課	
	Web of Science Advance編～新コンテンツ：助成金獲得情報、プレプリント、学位論文	クラリベイト社	令和6年5月14日	-	図書課	
	EBSCO利用講習会	EBSCO社	令和6年5月21日	17	図書課	
	統計勉強会	山田 覚 (看護学研究科 特任教授)	令和6年5月27日	7	図書課	
	令和6年度看護教育研究会第1回学習会「思考発話による臨床判断能力の育成」	池田 葉子 (聖路加国際病院)	令和6年6月8日	9	高知看護教育研究会	
	アカデミックライティング	Dr. Lee, Hyeon Ju (高知県立大学 非常勤講師)	令和6年8月1日～8月2日	18	看護学研究科 FD委員会	
	看護を語る会 第1回	精神看護学領域 急性期看護学領域	令和6年8月2日	29	看護学部FD委員会	
	統計勉強会	山田 覚 (看護学研究科 特任教授)	令和6年8月26日	8	図書課	
	Web of Scienceトレーニングサミット	クラリベイト社	令和6年9月10日	-	図書課	
	統計勉強会	山田 覚 (看護学研究科 特任教授)	令和6年9月23日	8	図書課	
	論文執筆について1	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和6年10月16日	5	看護学部FD委員会	
	Web of Scienceトレーニングサミット	クラリベイト社	令和6年10月22日	11	図書課	
	統計勉強会	山田 覚 (看護学研究科 特任教授)	令和6年10月28日	5	図書課	
	論文執筆について2	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和6年11月6日	5	看護学部FD委員会	
	論文執筆について3	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和6年11月13日	5	看護学部FD委員会	
	EBSCO利用講習会	EBSCO社	令和6年11月14日	9	図書課	
	統計勉強会	山田 覚 (看護学研究科 特任教授)	令和6年11月25日	6	図書課	

部署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
看護学部・看護学研究科	論文執筆について4	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和6年11月27日	5	看護学部FD委員会	
	看護を語る会 第2回	基礎看護学領域 専門基礎領域	令和6年12月4日	36	看護学部FD委員会	
	論文執筆について5	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和6年12月18日	4	看護学部FD委員会	
	臨床判断モデルを活用した臨床判断能力の育成	三浦 友里子 (聖路加国際大学 看護学部 )	令和6年12月21日	4	高知看護教育研究会	
	統計勉強会	山田 覚 (看護学研究科 特任教授)	令和6年12月23日	5	図書課	
	論文執筆について6	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和7年1月8日	3	看護学部FD委員会	
	論文執筆について7	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和7年1月22日	3	看護学部FD委員会	
	論文執筆について8	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和7年2月12日	1	看護学部FD委員会	
	論文執筆について9	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和7年2月19日	4	看護学部FD委員会	
	論文執筆について10	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和7年3月6日	3	看護学部FD委員会	
	論文執筆について11	中井 寿雄 (看護学部 准教授)	令和7年3月19日	3	看護学部FD委員会	
	看護を語る会 第3回	中井 寿雄(看護学部 准教授) 徳岡 麻由(看護学部 助教)	令和7年3月27日	24	看護学部FD委員会	
社会福祉学部	大学の魅力発信に向けて	社会福祉学部広報委員会	令和6年5月15日	22	社会福祉学部 FD委員会	社会福祉学部 広報委員会
	海外ジャーナルの投稿から採択までのプロセス	横井 輝夫 (社会福祉学部 教授) 河内 康文 (社会福祉学部 准教授)	令和6年5月27日	20	社会福祉学部 FD委員会	
	競争的資金獲得のための準備と方法	長澤 紀美子 (社会福祉学部 教授) 西内 章 (社会福祉学部 教授) コメント: 田中 きよむ (社会福祉学部 教授)	令和6年6月24日	22	社会福祉学部 FD委員会	
	大学授業・教育での効果的なICT活用	福間 隆康 (社会福祉学部 准教授)	令和6年7月29日	19	社会福祉学部 FD委員会	
	産官学・地域協働、多様な主体の参画による教育、研究の在り方	苅田 知則 (愛媛大学教育学部 教授)	令和6年9月26日	14	社会福祉学部 FD委員会	
	学生の修学支援1	社会福祉学部FD委員会	令和6年10月7日	23	社会福祉学部 FD委員会	
	支援する活動から、皆“で”生き抜くための実践へ	長野 敏宏 (御荘診療所 医師)	令和6年11月15日	101	社会福祉学部 FD委員会	
	免許返納問題と移動支援	朴 啓彰 (高知県立大学 客員教授)	令和6年12月5日	18	社会福祉学部 FD委員会・国際交流委員会	
	卒論/ゼミ/学生指導の質向上	西梅 幸治 (社会福祉学部 教授) 遠山 真世 (社会福祉学部 准教授)	令和7年1月20日	15	社会福祉学部 FD委員会	
	学生の修学支援2	社会福祉学部FD委員会	令和7年2月17日	23	社会福祉学部 FD委員会	
	人権教育	横井 輝夫 (社会福祉学部教授)	令和7年3月19日	19	社会福祉学部 FD委員会	

部署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
健康栄養学部	入学前教育について	株式会社進研アド	令和6年6月10日	12	健康栄養学部 FD委員会	
	科研費申請の最新動向～採択を掴むためのボイント解説～	公立大学教職員研修システム	令和6年7月16日 ～8月26日	11	健康栄養学部 FD委員会	
	令和6年度高知医療センターとの合同災害訓練に関する振り返り	赤松 遥 (高知医療センター栄養局) 島田 郁子 (健康栄養学部 准教授)	令和6年12月26日	23	健康栄養学部 FD委員会	
地域教育研究室	地域学実習 I 及び II の省察と改善計画	高徳 希(地域教育研究センター 准教授) 秋谷 公博(地域教育研究セン ター 准教授)	令和6年7月29日	5	地域教育研究 センターFD委 員会	

### (3)全学人権研修会

部署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
全 学	大学教職員の倫理 ～学生との関係を省察する～	上月 翔太(愛媛大学 教育・学生 支援機構 教育企画室 講師)	令和6年6月28日	147	高知県立大学 人権委員会	

### (4)部局別人権研修会

部署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
学文部化	大学におけるカスタマーハラスメントへの対応策－厚生労働省の文書及び裁判例を参考に	根岸 忠 (文化学部 准教授)	令和7年2月17日	20	人権委員会	文化学部FD委 員会
看護学部研究科	令和6年度 第1回看護学部人権研修 (高知県立大学ハラスメントの防止等に関する規程(令和6年4月1日改定)の読み合わせ)	人権委員会(看護学部)	令和6年5月15日	38	人権委員会	
	令和6年度 第2回 看護学部人権研修	厚生労働省e-learning「看護教員 Brush up動画「看護学生の特性に合わせた関り(25分)」受講	令和7年1月23日 ～2月21日	31	人権委員会	
社会学部福	「教育と研究」 (総務・危機管理規定第9条の規定に基づき実施)	横井 輝夫 (社会福祉学部 教授)	令和7年3月7日	22	人権委員会	社会福祉学部 FD委員会
健康学部栄	実施無し					
研究地 域教育 センター	要配慮の学生への対応について	石山 貴章 (地域教育研究センター 教授)	令和6年11月18日	5	人権委員会	地域教育研究 センターFD委 員会
事務局	実施無し					

### (5)学外研修

部署	内 容	期 間	参加者数 (人)	主 催
事務局	初任者研修①	令和6年4月1日	5	高知県公立大学法人
	初任者研修②	令和6年4月19日	5	高知県公立大学法人
	新規採用職員研修(基礎①)	令和6年4月5日	2	高知県
	新規採用職員研修(社会人経験者)	令和6年4月8日	3	高知県
	新規採用職員研修(基礎①)	令和6年4月15日	1	高知県
	新規採用職員研修(基礎①) (受講方法:オンライン)	令和6年4月22日～5月21日	2	高知県
	新規採用職員研修(社会人経験者) (受講方法:オンライン)	令和6年4月22日～5月21日 令和6年5月15日～6月14日	3	高知県

部署	内 容	期 間	参 加 者 数 (人)	主 催
事務局	新規採用職員研修(基礎②)	令和6年5月9日	2	高知県
	新規採用職員研修(基礎②) (受講方法:オンライン)	令和6年5月15日～6月14日	2	高知県
	新規採用職員研修(社会人経験者採用)	令和6年6月10日	3	高知県
	公立大学に関する基礎研修 (受講方法:オンライン)	令和6年4月15日	7	一般社団法人公立大学協会
	新規採用職員研修(基礎②)	令和6年5月27日	1	高知県
	新規採用職員研修(基礎③)	令和6年6月13日～6月14日	1	高知県
	新規採用職員研修(基礎③)	令和6年6月17日～6月18日	1	高知県
	公立大学職員セミナー	令和6年9月5日～9月9日	1	一般社団法人公立大学協会
	公立大学法人会計セミナー (受講方法:オンライン)	令和6年9月17日～令和7年1月15日	3	一般社団法人公立大学協会
	次世代リーダー養成ゼミナール 第1回	令和6年5月22日～5月24日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第2回	令和6年7月11日～7月12日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第3回	令和6年10月17日～10月18日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第4回	令和6年11月21日～11月22日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第5回	令和7年1月23日～1月24日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (新任職員)	令和6年5月15日～5月17日	4	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (レベルⅡ)	令和6年11月21日～11月22日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	SPODオンラインセミナー	令和6年11月14日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	SPODオンラインセミナー	令和7年11月29日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	SPODオンラインセミナー	令和7年12月6日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	SPODオンラインセミナー	令和6年12月20日	3	四国地区教職員 能力開発ネットワーク